

3) その他の取り組み

川辺川ダム事業では、主要な眺望景観の保全以外にも、貯水池周辺の景観形成に関する複数の取り組みを行っている。検討では、貯水池周辺の景観と調和した植生の復元を事業全体で計画的に進めることを重視している。また、現在進行している代替地の基盤整備では、宅地や道路などの生活関連施設を具体化する中においても、里山らしい景観を保全・継承することを目標としている。

①川辺川ダムグリーンプラン —地域の自然植生と調和したダムづくり—

「川辺川ダムグリーンプラン」は、貯水池周辺において、地域の豊かな自然環境や歴史・伝統文化と調和し、地域振興にも寄与することを基本理念に、計画的に緑化を進めるための指針として作成された。本指針は、地元の有識者や熊本県などにより指導、助言を頂きながら作成した。

②子守唄の里再生整備計画の検討

五木の子守唄で全国に知られる五木村は、白髪岳、国見山、八原岳などの1,000mを越す山々のふとこりに抱かれた緑豊かな山里の景観を呈する地域である。

頭地代替地は、生活再建の中核をなすものとなっており、「子守唄の里」再生を目指した地域づくりに向け、有識者、国、県、村より構成される「子守唄の里再生整備計画検討委員会」を平成5年7月に設置して検討を進めている。当委員会においては「ふるさとの景観」の創出と「地域振興」を図ることを念頭に、地域景観に配慮した整備方策の検討も行っている。また、以下に示すような施設毎の検討を行うとともに、「五木村のふるさと景観を守り育てる条例(平成10年条例第23号)」との連携を視野に入れた検討を行っている。

ア)せせらぎ水路

頭地代替地内を通る幹線道路沿いに、潤いとやすらぎを与えることを目的として、せせらぎ水路を計画している。水路には洗い場など生活に密着した施設を設置するとともに、自然素材を用いて山里景観との調和を図る工夫を検討している。

イ)流路工

頭地代替地内には、2本の流路工が計画されている。設置にあたっては、周囲の想定される土地利用状況を踏まえ、溪流の雰囲気味わえるような配慮を行い、五木の風景に馴染んだ整備を検討している。

ウ)擁壁・砂防堰堤

頭地代替地内の擁壁は、五木の里山としての風情に馴染むように配慮した整備とする。特に目立つ箇所はコンクリート擁壁とせず、30cm～50cmの自然石による雑積みとする。また、間知ブロックの場合は粗面仕上げのものを用いたり、ツタ類を植栽するなど、景観に配慮した工夫を検討している。

エ)緑化計画

現在の五木村の集落は、山地の緑を背景に農地や菜園の点在が見られ、里山を感じさせる景観を呈している。頭地代替地においては、こうした現況の“五木らしい景観”の再生を図るため、周辺樹木の種類や特性、どのような状態で生育しているかなどを把握し、植栽計画を検討している。

③ダムの設計

川辺川ダムは、堤高 107.5m、堤頂長約 300mのアーチ式コンクリートダムである。ダム供用後は、人吉方面から渓谷沿いに五木村の中心となる頭地地区に向かう付替道路より、アーチダムの下流面の姿がよく見えるようになる。

ダム堤体のデザインは、アーチダムの基本形状をシンプルに見せるため、付帯施設のコンパクト化や視覚的な煩雑さを抑えた設計に努めている。

ダム周辺の整備は、掘削法面への植生の復元や、関連する周辺の施設や建物の形状の工夫などにより、周囲の自然地形に馴染んだ風景となるよう努める。

現況写真へのフォトモンタージュにより作成したダム完成イメージ図を、写真 4.5.2-5 に示す。



写真 4.5.2-5 ダム完成イメージ図